

様相算術における選言特性と存在特性

倉橋太志 (神戸大学 システム情報学研究科)
奥田幹との共同研究

2021年9月16日(木)
日本数学会 2021年度秋季総合分科会

内容

- ① 様相算術 EA
- ② 選言特性と存在特性
- ③ 今回の研究

内容

- ① 様相算術 EA
- ② 選言特性と存在特性
- ③ 今回の研究

Gödel–McKinsey–Tarski の定理

直観主義命題論理 IPC を様相命題論理 S4 に埋め込むことができる。

定義 (Gödel の変換)

直観主義命題論理の論理式から様相命題論理の論理式への変換 T を次で定める：

- $T(p_i) \equiv \Box p_i$
- $T(\perp) \equiv \perp$
- $T(\varphi \wedge \psi) \equiv T(\varphi) \wedge T(\psi)$
- $T(\varphi \vee \psi) \equiv T(\varphi) \vee T(\psi)$
- $T(\varphi \rightarrow \psi) \equiv \Box(T(\varphi) \rightarrow T(\psi))$

定理 (Gödel, 1933; McKinsey and Tarski, 1948)

直観主義命題論理の任意の論理式 φ について、

$$\text{IPC} \vdash \varphi \iff \text{S4} \vdash T(\varphi).$$

様相算術 EA

Gödel–McKinsey–Tarski の定理は算術に拡張できる。
 Shapiro は PA に S4 を加えることで得られる様相算術 EA
 (Epistemic Arithmetic) を導入した。

EA (Shapiro, 1985)

- 様相算術の言語 $\mathcal{L}_A(\Box)$ は \mathcal{L}_A に \Box を加えたもの。
- EA の公理は PA の公理に $\mathcal{L}_A(\Box)$ の論理公理と帰納法公理,
 $\Box(\varphi \rightarrow \psi) \rightarrow (\Box\varphi \rightarrow \Box\psi)$, $\Box\varphi \rightarrow \varphi$, $\Box\varphi \rightarrow \Box\Box\varphi$ を加えたもの
- EA の推論規則は MP $\frac{\varphi \quad \varphi \rightarrow \psi}{\psi}$, GEN $\frac{\varphi}{\forall x\varphi}$, N $\frac{\varphi}{\Box\varphi}$

Shapiro–Goodman の定理

Gödel の変換 T を次のように述語論理のものに拡張する.

- $T(\forall x\varphi) \equiv \Box\forall xT(\varphi)$
- $T(\exists x\varphi) \equiv \exists xT(\varphi)$

このとき次が成り立つ.

定理 (Shapiro, 1985; Goodman, 1984)

任意の \mathcal{L}_A 文 φ について,

$$\mathbf{HA} \vdash \varphi \iff \mathbf{EA} \vdash T(\varphi).$$

EA は HA と PA の両方に関係をもつ興味深い理論.

内容

- ① 様相算術 EA
- ② 選言特性と存在特性
- ③ 今回の研究

選言特性と存在特性

定義（選言特性 DP）

理論 T が**選言特性 (DP)**を持つ

: \iff 全ての文 φ, ψ について,
 $T \vdash \varphi \vee \psi$ ならば $T \vdash \varphi$ または $T \vdash \psi$.

定義（存在特性 EP）

\mathcal{L}_A -理論 T が**存在特性 (EP)**を持つ

: $\iff x$ 以外を自由変数に持たない論理式 $\varphi(x)$ について,
 $T \vdash \exists x \varphi(x)$ ならば, ある自然数 n があって $T \vdash \varphi(\bar{n})$.

HA における DP と EP

HA については次が知られている。

定理 (Kleene, 1945)

HA は DP と EP を持つ。

定理 (Friedman, 1975)

HA の任意の RE 拡大 \mathcal{L}_A -理論 T について,
 T は DP を持つ $\iff T$ は EP を持つ。

MDP と MEP

こうした状況は様相算術においても見出すことができる。

定義（様相選言特性 MDP）

様相算術 T が**様相選言特性 (MDP)**を持つ

: \iff 全ての文 φ, ψ について,

$T \vdash \Box\varphi \vee \Box\psi$ ならば $T \vdash \varphi$ または $T \vdash \psi$.

定義（様相存在特性 MEP）

様相算術 T が**様相存在特性 (MEP)**を持つ

: $\iff x$ 以外を自由変数に持たない論理式 $\varphi(x)$ について,

$T \vdash \exists x \Box\varphi(x)$ ならば, ある自然数 n があって $T \vdash \varphi(\bar{n})$

定理 (Shapiro, 1985)

EA は MDP と MEP を持つ。

定理 (Friedman and Sheard, 1989)

EA の任意の RE 拡大 $\mathcal{L}_A(\Box)$ -理論 T について,

T は MDP を持つ $\iff T$ は MEP を持つ。

第 1 不完全性定理と DP

古典論理の無矛盾な理論 T について, DP は完全性と同値.

第 1 不完全性定理の言い換え (Gödel, 1931; Rosser, 1936)

PA の無矛盾な RE 拡大理論 T は DP を持たない.

第 1 不完全性定理は次のように拡張できる.

定義 (Γ -DP, Γ -EP)

- 理論 T が **Γ -DP** を持つ : \iff 任意の Γ 文 φ, ψ について, $T \vdash \varphi \vee \psi$ ならば $T \vdash \varphi$ または $T \vdash \psi$.
- 理論 T が **Γ -EP** を持つ : $\iff x$ 以外を自由変数に持たない任意の Γ 論理式 $\varphi(x)$ について, $T \vdash \exists x \varphi(x)$ ならば, ある自然数 n があって $T \vdash \varphi(\bar{n})$.

定理 (Jensen and Ehrenfeucht, 1976)

PA の無矛盾な RE 拡大理論 T は Π_1 -DP を持たない.

Σ_1 -DP の特徴づけ

Σ_1 -DP については、持つ理論と持たない理論がある。

定義 (Γ -健全性)

理論 T が Γ -健全 : \iff

任意の Γ 文 φ について、 $T \vdash \varphi$ ならば $\mathbb{N} \models \varphi$.

定理 (Guaspari, 1979)

PA の無矛盾な RE 拡大理論に対して、

$$\Sigma_1\text{-DP} \iff \Sigma_1\text{-EP} \iff \Sigma_1\text{-健全}.$$

内容

- ① 様相算術 EA
- ② 選言特性と存在特性
- ③ 今回の研究

最初の結果

定義

HA の RE 拡大理論 T に対して,
 $\tau T := \text{EA} + \{T(\varphi) \mid T \vdash \varphi \text{ かつ } \varphi \text{ は文}\}$

定理 (K. & O.)

HA の RE 拡大理論 T に対して,
 T は DP をもつ $\iff \tau T$ は MDP をもつ.

- $\tau \text{HA} = \text{EA}$ なので, HA の DP と EA の MDP は同値.
- 様相算術の分析が HA の拡大理論の分析につながる.

- 様相算術に対する MDP と MEP とその周辺について分析するために、次の Guaspari の結果を思い出す。

Guaspari の結果 (再掲)

PA の無矛盾な RE 拡大理論に対して、

$$\Sigma_1\text{-DP} \iff \Sigma_1\text{-EP} \iff \Sigma_1\text{-健全.}$$

問い

様相算術について、

$$\text{MDP} \iff \text{MEP} \iff \Gamma\text{-健全}$$

となる Γ はあるか？

Σ_1^\square 論理式

\square を $\text{Pr}_T(x)$ だと思えば, これも Σ_1 だろう.

定義 (Σ_1^\square 論理式)

$\mathcal{L}_A(\square)$ -論理式が Σ_1^\square 論理式であることを次で定める:

- Σ_1 論理式は Σ_1^\square 論理式.
- 任意の $\mathcal{L}_A(\square)$ -論理式 φ について $\square\varphi$ は Σ_1^\square 論理式.
- φ, ψ が Σ_1^\square 論理式なら, $\varphi \wedge \psi, \varphi \vee \psi, \exists x\varphi, \forall x < t\varphi$ もそう.

Σ_1^{\square} -健全性

- を含む文が自然数の標準モデル \mathbb{N} の上で正しい、という概念をうまく定義する必要がある。

定義 ($\mathbb{N} \models_T \varphi$)

$\mathcal{L}_A(\square)$ -文 φ について、 $\mathbb{N} \models_T \varphi$ であることを次で定める：

- φ が \mathcal{L}_A -文ならば、 $\mathbb{N} \models_T \varphi : \iff \mathbb{N} \models \varphi$
- $\mathbb{N} \models_T \varphi \wedge \psi : \iff \mathbb{N} \models_T \varphi$ かつ $\mathbb{N} \models_T \psi$
- $\mathbb{N} \models_T \varphi \vee \psi : \iff \mathbb{N} \models_T \varphi$ または $\mathbb{N} \models_T \psi$
- $\mathbb{N} \models_T \varphi \rightarrow \psi : \iff \mathbb{N} \not\models_T \varphi$ または $\mathbb{N} \models_T \psi$
- $\mathbb{N} \models_T \forall x \varphi(x) : \iff$ 全ての自然数 n について $\mathbb{N} \models_T \varphi(\bar{n})$
- $\mathbb{N} \models_T \exists x \varphi(x) : \iff$ ある自然数 n について $\mathbb{N} \models_T \varphi(\bar{n})$
- $\mathbb{N} \models_T \square \varphi : \iff T \vdash \varphi$

定義 (Σ_1^{\square} -健全性)

$\mathcal{L}_A(\square)$ -理論 T が Σ_1^{\square} -健全 : \iff
 全ての Σ_1^{\square} 文 φ について、 $T \vdash \varphi$ ならば $\mathbb{N} \models_T \varphi$.

周辺概念

- この流れで Σ_1^\square -DP や Σ_1^\square -EP を考えるのは自然.
- 更に次の概念を考える.

定義 (弱様相選言特性と弱様相存在特性)

- $\mathcal{L}_A(\square)$ -理論 T が**弱様相選言特性 (wMDP)**を持つ
 : \iff 全ての文 φ, ψ について,
 $T \vdash \square\varphi \vee \square\psi \Rightarrow T \vdash \square\varphi$ または $T \vdash \square\psi$.
- $\mathcal{L}_A(\square)$ -理論 T が**弱様相存在特性 (wMEP)**を持つ
 : $\iff x$ 以外を自由変数に持たない論理式 $\varphi(x)$ について,
 $T \vdash \exists x \square\varphi(x)$ ならば, ある自然数 n があって $T \vdash \square\varphi(\bar{n})$.

結果

PA に K4 を加えて得られる理論を PA(K4) とかく。

主定理 (K. & O.)

PA(K4) の無矛盾な RE 拡大 $\mathcal{L}_A(\Box)$ -理論 T が $T \not\vdash \Box \perp$ ならば,

$$\begin{array}{ccccc}
 \text{MDP} & \iff & \text{MEP} & \iff & \Sigma_1^\Box\text{-健全} \\
 \downarrow \Uparrow & & & & \\
 \Sigma_1^\Box\text{-DP} & \iff & \Sigma_1^\Box\text{-EP} & \iff & \text{wMEP} \\
 \downarrow & & & & \\
 \text{wMDP} & & & & \\
 \downarrow \Uparrow & & & & \\
 \Sigma_1\text{-DP} & \iff & \Sigma_1\text{-EP} & \iff & \Sigma_1\text{-健全}
 \end{array}$$

MDP と MEP の同値性には $T \not\vdash \Box \perp$ という仮定は用いないので、Friedman and Sheard の結果の拡張にもなっている。

系

HA の拡大 T について, T は DP を持つ $\iff \tau T$ は Σ_1^\Box -健全.

参考文献

- ① H. Friedman and M. Sheard. The equivalence of the disjunction and existence properties for modal arithmetic. *The Journal of Symbolic Logic*, vol. 54, no. 1, pp. 1456–1459 (1989).
- ② S. Shapiro. Epistemic and intuitionistic arithmetic. In *Intentional Mathematics*, vol. 113 of *Studies in Logic and the Foundations of Mathematics*, pp. 11–46. Elsevier Science Ltd (1985).
- ③ T. Kurahashi and M. Okuda. Disjunction and existence properties in modal arithmetic. 準備中.